

奨励賞

『おろろこうま』に思う

日吉町 西出口 予

介護施設で九十分の体操を済ませ、帰りの送迎車に乗るために待っていた時に、同級生にいきなり声を掛けられました。彼女は、

「昔、『おろろこうま』って云われていましたね。」って云いました。私は約八十年振りに『おろろこうま』という言葉聞き、驚き、思わず聞き直しました。間違いなく『おろろこうま』でした。

彼女は、『おろろこうま』のことを加賀市あたりから背に荷物を載せない馬が何頭

も北国街道を連なつて、松任（現在の白山市）あたりまで牽かれて行った農耕馬のことだと話してくれました。彼女は子どもの頃に見ていたそうです。

私は、昭和十年の三月の早生まれです。昭和十六年四月に稚松国民学校に入学しました。その年の十二月八日に第二次世界大戦が始まりました。遅生まれの同級生との間には約一年の差があります。何事においても他の同級生に比べてできることがゆつくりでした。同級生が非常に賢く見えていつも消極的に行動していたように思います。二年生になると戦争の影が色濃くなり、だんだん身の回りから物が無くなってきました。国民一億一心何事も耐え忍ぶことが美德とされた時代でした。そのうちに空襲に備えて避難訓練をすることになりました。訓練の度にサイレンが鳴らされ、生徒達は校舎から近くの公園（芦城）の中に集まり、身を隠す練習をしました。

私は、初めてのことで他の生徒達より遅れて行ったのでしょうか、恐い感じの中年の女性教諭に、

「そこにいる『おろろこうま』何しとる、早く集まれ。」と皆の前で怒鳴られました。

私は、大変恥ずかしい思いをして同級生の列の中に入りました。並んだ場所からは石垣が目の前に見えました。現在の図書館のあたりだと思っています。その場所は大きな蚊がいて一層恐い思いをしました。

私は、その時から『おろろこうま』という言葉はのろろしていて同級生達のようにしつかりしていない子どもの事、或いは人を軽蔑する言葉だと思っていました。そして、自分の事を恥じていました。しかし、実際に『おろろこうま』と呼ばれる馬がいたのです。

私は同級生からこの話を聞いた時、八十年間の胸の痞えがおりました。